

平成25年度第2回柏原市図書館協議会議事録

1、日 時 平成25年10月30日 (火)午前10時から正午まで

2、場 所 市民文化センター1階学習室

3、出席者

出席委員	会長	高 鋤 裕樹	学識経験者（大阪教育大学准教授）
	委員	井ノ浦 一子	家庭教育活動者（公募委員）
	委員	扇田 節子	社会教育関係者（図書館ボランティア）
	委員	久保 明子	家庭教育活動者（公募委員）
	委員	新屋 広子	学識経験者（市議会議員）
	委員	出野 光広	社会教育関係者（こども会連絡育成協議会）
	委員	富宅 正浩	学識経験者（市議会議員）
	委員	吉見 静香	社会教育関係者(社会教育委員)
欠席委員	副会長	蛇草 真也	学校教育関係者(堅下南小学校校長)
	委員	矢野 瑞希	社会教育関係者（PTA協議会）

事務局

生涯学習部長	林 和彦
生涯学習部次長兼図書館長	真野 繕意
柏原図書館館長補佐	北野 良一
主幹兼国分図書館長	八幡 敏朗
柏原図書館主幹	山路 茂樹
柏原図書館主査	増井 良年
柏原図書館主査	児玉 太津男

4、案 件

- (1) 新委員の紹介
- (2) 平成25年度上半期図書館事業執行状況について
- (3) 平成25年度下半期図書館事業計画について
- (4) 図書館の今後の運営のあり方について
- (5) その他

5、議事の内容

司 会

定刻になりましたので、ただ今から平成25年度第2回柏原市図書館協議会を開会いたします。

皆様方には、本日、公私なにかとお忙しいところ当協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日の司会をいたします、柏原図書館主査の増井でございます。よろしくお願いいたします。尚、職員につきましてはクールビズの関係でノーネクタイ、上着なしで出席しております。ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

まず、会議に入ります前に、皆様方には事前をお願いをしておりますとおり、本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第15条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開することといたしますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に先立ち生涯学習部長から開会のあいさつを申し述べさせていただきます。

<生涯学習部長挨拶>

司会

<新委員に任命書の交付>

<出席委員の紹介>

<資料の確認>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1／2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中8名が出席されておりますので、協議会は成立しております。

それでは協議会条例第5条第1項により、会長が議長をつかさどることになっておりますので、これからは高鉾会長に議事進行をお願いいたします。

<会長挨拶>

会 長

それでは、議事に従って進行します。

1 番目、上半期事業執行状況について、事務局からお願いします。

事務局

資料No.1 をお願いします。柏原図書館の上半期事業報告させていただきます。こども読書週間行事として、こどもクイズラリー大会、こどもたんけん隊を行い、また移動図書館の開放、季節に即した図書の展示、リサイクル市及び夏の工作ランドなど、多彩なイベントを行っております。またボランティアとの共同事業として、てんとう虫さん・ぶつくパフェさんによる本の読み聞かせ、紙芝居を行っております。参加者人数は1, 104人であります。

国分図書館では、柏原図書館で人気であった工作ランドを「貯金箱を作ろう」ということで行っております。ぬいぐるみのおとまり会など、多彩なイベントを行っております。ぬいぐるみのおとまり会は盛況で、初めての試みでしたが、これからもまた行っていきたいと思っております。ボラン

ティアとの共同事業として、各ボランティアさんとの共催で数多くのお話会などを行っております。
行事参加人数は、1, 025 人の方が来館されました。

会 長

ありがとうございました。

ただ今、平成 25 年度上半期の事業執行状況を報告していただきましたが、何かありますでしょうか？

委 員

上半期の事業として国分図書館では、夏休み前にブックトークが行われているのですが、柏原図書館でも来年からでもされる予定はないのでしょうか？

事務局

柏原図書館では、今のところブックトークはありませんので、これから検討して考えていきたいと思えます。

会長

今、ブックトークをされていないのには何か理由はあるのでしょうか？

事務局

柏原図書館では、来年度からブックトークを行う予定をしまいたいと考えております。。

委員

国分図書館の9月28日のぬいぐるみのおとまり会とは、どんなものなのでしょうか？

事務局

ぬいぐるみのおとまり会というのは、他市で一度やっていて、非常に面白い催しなので、国分図書館でもやってみようと思いました。内容は、小さい子供たちが大事にしているぬいぐるみを持って来てください。図書館にはご本人は泊まれないけどぬいぐるみは泊まれるよと。夕方、お話会をして、ぬいぐるみにお布団をかけて寝させてあげて、そのぬいぐるみが夜中に図書館見学をするんです。あっちこっち本を探したり、検索をしたり、その姿をこっそり図書館員が写真を撮ってますという形で、写真を撮らせてもらって、そして翌日、図書館員は夜中1時まで仕事をしてたんですが、動いた姿を写真を撮ってレターカードにして1人1人に渡す。その人形は自分が探したお薦めの本を持っているんです。持ち主さん、いっしょに読んでね、という形で、本に親しんでいただくようなイベントをいたしました。当初、10人位予定をしていましたが、大変たくさん来ていただきましたし

た。また次年度も計画したいと思っています。

会長

私からひとつ伺いたいのですが、事業として、読み聞かせやぬいぐるみのおとまり会をしていただくのは、とても素晴らしいのですが、図書館としての基本は資料の提供ですが、そのデータは今回出てませんか？例えば、貸出やレファレンスなどについて。

事務局

4～9月までの統計が出ています。貸出冊数が22万5869冊、予約冊数が1万1970冊、利用者数6万3499人となっております。24年度の4～9月と比較しますと、貸出冊数1000冊の減少、予約冊数は2798冊、利用者数は1599人の増加となっております。

会長

そうすると、利用者としては増えているが、1人当たり冊数が下がって、全体としての貸出しは少し下がっている。利用者が増えてるのであれば、図書館の利用の広がりということで、評価はできると思いますが、貸出冊数もどれくらい資料が利用されているかというのは、図書館として重要な指標だと思いますので、伸ばしていただく努力を続けていただければと思います。

会長

レファレンスについての数の把握、内容の把握はされてますか？

事務局

やっております。件数、内容とも把握しており、また年度末に出したいと思っております。

会長

2つ目の議題、平成25年度の下半期事業計画についてお願いします。

事務局

平成25年度生涯学習事業計画下半期についてご説明いたします。

柏原図書館では、ボランティアさんとの共催による本の読み聞かせ、秋の読書週間といたしまして、本のリサイクル市、保存切れになった雑誌や寄贈本のリサイクルをしております。雑誌付録抽選大会といたしまして、購入しました雑誌の付録を集めて、提供しようということで新しく企画しました。また、小林一茶生誕250周年「俳句川柳を詠もう」では、江戸時代の名俳人、小林一茶生誕250周年を記念して、俳句・川柳本の展示、また句を募集し展示します。今、図書館の児童室前で、募集して出してもらった俳句を展示しております。文学賞の展示、各文学賞にノミネートされた作品や受賞した作品の展示をカウンターの前でしております。これも毎年しております事業です。

ので、今後も引き続きしていきたいと思っております。

続いて、国分図書館の下半期の事業について。柏原同様、さまざまなイベントを行っております。また、新しく「こくぶっくんのおすすめ本のコーナー」を新設いたしました。また、国分でも「はじめての一行」として書名を隠したまま、本の冒頭の一文だけを読んで、本を借りるというイベントなども新しく行っております。また「本屋大賞はどの本だ!?国分図書館総選挙」ということで、毎年4月に発表される本屋大賞のノミネート作品から、大賞受賞を予想してもらうイベントです。

会長

下半期の事業計画について説明をしてもらいましたが、何か質問はありませんか？感想や提言などでも。

僕から伺いたいのですが、リサイクル市が柏原図書館、国分図書館で行っていますが、蔵書にできない寄贈本や廃棄予定の雑誌となっていますが、図書館の除籍本はどうなってますか？

事務局

雑誌に関しては、1年間の保存切れのものはリサイクルに出していますが、本に関しては傷んでおりリサイクルには不向きなので、痛んだ図書についてはリサイクルに出さず廃棄しております。

会長

除籍はどのくらいありますか？

事務局

図書1, 556冊、雑誌1, 495冊、AV48点、計3, 099冊です。

会長

そこその規模だと思いますので、多分年間にして1000冊くらいは除籍されていると思いますが、それが全てボロボロで使いづらいというのは考えづらい。

事務局

利用者に貸し出して返ってきたときに、ある程度は使えるように修理しますが、それでも無理な時は除籍しております。

会長

破損、損壊は使えないのはその通りだと思いますが、単に利用が少なくなったので除籍される本は？

事務局

それはありません。ただ、旅行案内や 10 年前の資料などは毎年、毎年変わってきますので、廃棄します。

会長

ある意味賞味期限の切れるものはそうだと思いますが、一般論でいう場合図書館の資料というのは基本的には消耗品で、ある程度利用がなくなったら新しいのに取り替えて、より利用のある他の資料を図書館に入れていくのが普通なんです。例えば、図書館開館当初の資料もボロボロにならなければ、ずっと置いてあるということですか？

事務局

残しているものもあります。岩波の絵本など、いまだに利用がありますので。

会長

需要のあるものはいいのですが、5 年間まったく利用のないものを置いておくのか、5 年か 10 年かは状況次第ですが、それは図書館としては問題だと思います。

事務局

本市は備品で購入しますので、処分が難しい。消耗品なら処分しやすいのですが。汚損、破損、ページ抜け、濡れた本、古本でも汚いものを除籍しますが、14 万冊あり、書庫に 5～6 万冊入っている関係上、古本については上司と相談しまして、リサイクル本に出してもいいかと思っています。

会長

厳しいことになるかもしれませんが、リサイクル市で図書館の蔵書とはしない寄贈本があるわけですね。そこで、蔵書としない寄贈本中でそこそこいけてるものと、図書館に蔵書になってるが何年も利用のないものとは、どちらがより魅力的でしょうか？10 数年も利用のないのに備品として置いてある本と、ここ 1 年の間に寄贈としていただいたにも関わらず、図書館の蔵書とせずにリサイクル市に回すというのはどうでしょうか？

事務局

図書館が必要と認めた本は、抜き出して蔵書としております。

会長

図書館の蔵書は、除籍されるのが普通なので、なっていないのならば図書館の運営として昔風の

運営かと思います。

事務局

24年度の除籍冊数で柏原図書館で1454冊、国分図書館で102冊、合計1556冊となっております。

会長

先ほどのお話では蔵書数が14万冊といわれました。ということは1%ですね。それはやっぱり、利用者からみれば図書館の本が全然更新されないように見えるんだろうなと思います。

学校図書館関係で文科省がお金を出してますが、年間200億円出していますが、そのうち80億か120億円を蔵書を更新するための費用として出していることになっている。学校図書館と公立図書館は話は違いますが、しかし、蔵書を新しくする、古いものをなくして新しいものにするという更新するというのが教育や、資料の提供にあたって重要だという意識をもっておくべきだと思います。

例えば、5%入れるのであれば5%廃棄する。今、日本の図書館では蔵書に対して新しく入ってくる資料の量は平均して5%くらいであり、それに対して5%くらい廃棄する必要がある。理想的には1992年の文部科学省の望ましい基準では2割くらい新しい本を入れるとしており、それはずっと2割新しい本を入れて増やし続けるという意味ではなく、建物は限界がくるので更新することを意識していかなくはいけない。蔵書の更新についても考えていただければと思います。今、やっていないことは事実としてかまいません。すぐに変えるということではないですが、図書を更新することでより魅力的な図書館を目指すということで意識していただきたい。

事務局

資料費の問題として、柏原市は財政状況等もあり2館で図書購入費が900万円です。この数字は全国平均の半分、平均であれば1,800万円ですが、選書につきましては精査し、寄贈もお願いしています。選書につきましても1週間に1回1000冊ほどのデータが送られてくる中で、900万円目いっぱい購入する努力はしております。

会長

すぐにではなく、長期的な視点で魅力的な図書館を目指していただければいいと思います。

委員

国分図書館の下半期の事業で「はじめの一行」という事業がありますが、書名を隠したまま、冒頭の一文だけで本を借りるというものですが、利用はどのくらいありますか？

事務局

現在、展示中です。はじめはぼつぼつでしたが、徐々に借りられるようになりました。私自身も、正解率が何%という状態です。中にアンケートも入れておりますし、少しでも一般利用者の方が本に親しまれるような思いが伝えられるようにと始めた事業なので、半分くらいは借りられてほしいという気持ちです。

会長

続きまして、平成 25 年度ブックスタート、FMチャオ事業について。

事務局

平成 25 年のブックスタートは市としまして、赤ちゃんの体の成長にミルクが必要なように心と言葉をはぐくむためには優しく語りかけるための施策としております。その過程を通して赤ちゃんは人を信頼し、心を通わすための基礎をはぐくみます。ブックスタートは赤ちゃんと保護者に、絵本を開く楽しさを知っていただくものとして行っており、4 月から 10 月までに月 2 回、4 カ月検診を受診に来られた方を対象にオアシスにて図書館職員と図書館ボランティアの方とで 298 人の赤ちゃんに読み聞かせをさせていただきました。

また、FMチャオ、地域放送なんですが、毎月第一水曜の朝 10 時から放送してまして、内容は例えば、本屋大賞の話題や芥川賞、直木賞の受賞の話、本に関する話題や行事・展示及び新刊図書の利用案内をさせていただきました。

会長

今のブックスタート、FMチャオについて質問はございますか？

委員

ブックスタートは当初は本を配っていたと思いますが？その本は、年によって変わりますか？ずっと同じですか？

事務局

年度ごとに無くなり次第切り替えてます。

委員

無くなり次第ということは、ある程度購入してそれがなくなったら新しくということですか？

事務局

そうです。

委員

ブックスタートは、お母さんたちがこれがいいと選んで持って帰られるんですか？自由に、こちらからこれをというわけではなく、選べるんですか？

会長

いくつかの中からということですか？

事務局

たまたま、双子の御子さんいたり、上の子が同じという場合、その本をもらっている場合、本を変えてほしいと言われた場合は取り替えて違う本をお渡しします。

会長

ということは、最初の段階では選べないということですか？

事務局

年度で1種類の本を購入しその年度で行い、次の年はまた違うタイプの本を選んで購入しています。例えば、双子さんなどの場合、同じ本を渡してしまうことになるので前年度の新しいものを何種類か置き置きしておき、それをお渡しするようにしています。

会長

最初の段階では、2種類あるんですか？

事務局

年度は1種類です。ただ、今までお渡ししていた絵本を何冊かをストックしておいて、年子さんや双子さんで本が重なる場合、本を取り換えてお渡ししています。

会長

わかりました。でも、それは選択ではないと思います。

事務局

たくさんの中から選べるわけではなく、こちらが指定はしています。

委員

中には、この本を持っているという家庭もあると思います。理想としては何冊か本があってその中から持って帰れる方がいいんじゃないかと思います。

事務局

中にはそういう方もいらっしゃいます。その場合、これとこれと 3 種類ありますから、この中から選んでくださいという形です。

委員

その中からというのが基本ということですね。

会長

他に何かございますか？なければ一言。できれば 1 枚ものでいいので資料があればと思うところ
です。

議題として 3 番目に入ります。図書館の今後の運営のあり方についてです。

まずは資料 2 の現存のスペースを改修した場合の〇〇に関して事務局からお願いします。

事務局

前回の協議会で、図書館の運営の在り方について、教育委員会の意見としてお話をいただきましたが、その後指示がまだなく、このスペースで改装できるところがあれば改装していこうと、
広げることもできないし、上に増設することもできない。それは住居地の関係や、都市公園の関係
もありまして、現存のこのスペースの中でどう改装したらもう少し明るくなるのかということ考
えてみました。左側が現在の配置でございます。右に今後の図書館の運営方針です。

柏原市立図書館(柏原図書館・国分図書館)は、時代の変化に伴って多様化する市民のニーズに対応
するため、従来の読書・学習の場としてだけでなく幼児から高齢者までのあらゆる人々に対し迅速
かつ的確に資料や情報を収集提供し、市民全ての生涯学習をサポートする文化・情報発信の拠点と
しての役割を持つこと。また、心地よい憩いの空間として、市民の交流の中心となり、地域社会と
密接に連携し、そこから生まれる創造性により、図書館運営の充実だけでなく地域の発展に貢献で
きる、インフラストラクチャーのかなめとなる場所を目指していきたいと考えています。その中で
①情報発信・生涯学習のサポート、②市民交流・地域発展の中心地へ、③地域との連携、④さらな
る発展に向けて、これをやることによりまして、問題点としましては、とにかくスペースが足りな
い、施設改修の必要性が出てくるということになります。次のページで、現状の図書館を改修した
場合、現在書架は、縦列ですが書架を少し低くして横列にし、明るい雰囲気を出すというか、現在
あるスペースの中で、風通しの良い開けた空間を得るために、ブースごとの仕切りをできるだけ排
除、書架の位置を工夫して配置し、見通しの良い館内にする。また、喫茶ブースや広いブラウジ
ングコーナー、窓際に多くの椅子、机を配置して、くつろげる読書スペースを確保。児童書ブースは
書籍量、スペース共に増やし、より子どもたちが楽しんで読書できるように工夫する。情報・検索
コーナーの機能強化(電子書籍配信や、デジタルアーカイブの閲覧)カウンター横のスペースに、物産

品コーナーを設置することによって、市民の交流、情報発信の役割も持たせることができる。その他にも、視聴覚コーナーの拡充や館内装飾の工夫(壁紙やじゅうたんの入れ替え)等によって、図書館の改修と機能拡張は可能であると思われるが、これらにおいても、財政面の検討を十分に行う必要があると思われます。以上、現状のまま改修した場合を想定しまして、作らせてもらいました。

会長

確認になりますが、前回の図書館協議会で出た話では、市長が図書館に関して改修というか、改善を要求してきたということですが、その後市長からの要求に関しては続けてはないということですね。検討せよということだけですね。検討した時に、建物として作り変えるのは無理そうである、また、都市公園という話も出ましたが、藤棚などを建物として取り込めないかと思ったが、法律の観点から見て都市公園の関係で公園として設置しているので、なくすと他のところに同じだけの公園を作らなくてはいけない。だから、それも難しいので、建物としては現状のままで基本的にはやらざるを得ないということで、では、どういう改善が可能かということで考えてみたということですよ。それで、形としては書架を入れ替えて、見通しがよく、明るく、風通しの良い空間を作ろうという空間配置の変換だということですね。建物はいじらずに、中味をよりよくするためにはどうするかということに対する意見や、現在の計画というか、これは計画というよりはたたき台、案に対して、市民のみなさんがこういう図書館が欲しいとか、こういう図書館の機能が欲しいというご意見をいただきたいというのが事務局から議事に出された理由だと思いますが、図書館の新しい空間配置案についてなにかご意見あるいはご要望などありますか？

委員

たたき台ですね。財政面の検討といっても、これをしてもいくらかかるかというものも、わからない状態ですね。バリスタマシーンを入れてもそれがいくらかかるかもわからない状態ですね。今考えておられている理想形ではないにしても、できるだけお金をかけずに改修した場合は、このような形でいくのがいいのではないかというお話ですね。

喫茶室に興味を持っているんですが、他の図書館にもありますが、僕は図書館は静かな場所であってほしい。喫茶コーナーを併設した場合、できるだけ図書、資料、本を見に来た人の邪魔にならないように別に分けてやっていただけたらという思いがあります。

会長

喫茶と言われているんですが、カウンターの横に喫茶と書かれています、ここがバリスタマシーンを置く計画になってると思いますが、実際、飲むのはどこになりますか？ここで立ち飲みするのですか？

事務局

この喫茶の場所で飲んでいただく予定です。カウンターの横にあると司書や館長と話もできます。

小布施の図書館を見学したときに、館長の席の横ではご飯を食べてもよいというのがあり、そんなのも良いかなと思いました。

委員

少しだけ休憩するのに使うということですね。

事務局

これはもともと公園を利用してオープンして喫茶もできる市民が集えるようなという構想があったんですが、その中から公園では難しいのではということで、でも利用者がコーヒーでも飲めるようなという発想のもとで各所の図書館を見てまいりまして案としてこのような形として出しましたが、実際のところ喫茶コーナーが必要なかどうか、外ではできますが、中で必要なかということがスペース的に問題になってきます。それで、スペースが確保されてもどういう形で来場された方が心安らかに本を読みながら、コーヒーを飲みながらとできていくのかどうかを検討していなくてとは思いますが。今のこの案は事務局の案ですので、館内の中で本当に喫茶コーナーが必要かなというところからですが。その話の前提がここの前にテラスを作るというのはどうだと、市民の方が図書館を利用されない方でも図書館によってください。そのようなこの町のにぎわいを作っていけないかという案からの発想です。この壁をぶちぬいてオープンにするのは不可能ですし、先ほど会長からもありましたが、わたくし8月にここに来ましたが、8月以降市長からの図書館をどうこうという話は直接的にはありません。以前、岡本部長の時にそういう案がありまして、図書館だけでなく上の公民館も含めた形での活性化という案はあったことは確かです。ただ直接、私の方に図書館に対して何かという指示はありません。

会長

個人的に意見だと思っていただけたらいいのですが、図書館内で何か食べられる場所があるのは、評価できると個人的に思います。喫茶じゃなくてもいい。例えばお弁当食べてみようとか、普通、図書館の中では飲食禁止でして、それは別にかまわないのです。資料保全の関係のためしょうがないと思う。ただ、ご飯を食べる時、外に出ないといけないのは不便で、少し小さなスペースを用意して、そこでお弁当食べていいよというスペースがあると便利かなと思います。そこにバリスタマシーンをおくか、どうかは別の話として。その意味でそういうのは休憩の時に使われるわけで、その時図書館職員とのふれあいの場になるならそれはよりいいかなと思います。だから、ここを喫茶と言わずに、休憩室とか飲食が可能な場所として用意するのはひとつの案と思います。

別の話です。現在の柏原図書館の本棚は高さが高いと思います。それもあって、あまり高くない本棚を用意しようと話しておられましたが、館側としては、それはすぐれた案だと思います。そこで、先ほどの話につながってしまいますが、その場合、あふれた本はどこに置くんたという問題が当然出てきます。書庫のスペースは少なくとも現状と案を見る限りあまり変わってないんですが、

入るんですか？

事務局

今年度、除籍の分をリサイクルに回したり、私の案ですが、小学校の空き室に移して置かせてもらえたらと思います。児童文庫として活用させてもらえたらという考えは持っています。

会長

それは、調整が必要となり簡単な話ではないですが、それが可能となると新しい案に書庫を置いておく理由はあまりなくなると思います。スペース的に利用者に入ってもらいにくい場所だと思いますので、それをどう活用するのかは状況次第だと思いますが、閲覧席、閲覧室が増やせるならその方がいいと思います。ただ、現在の計画は、現在の建物をそのまま使うことを前提に作られていますので、どこまで壁を取り除けるかなどあると思いますが、もし可能であれば閲覧室のスペースを増やす形で建物の平面図を考えていただければと思います。例えば書庫も利用者が入れるスペースになるなら右側のリファレンスルームを持ってくるとかできるのでは。それだけの工事ができるかというお金の問題もあります。

何か、図書館にこうなってほしいという要望を出していただけたら、考慮していただけたらと思います。何かございますか？

委員

相談室というものがありますが、何に使われる予定ですか？

事務局

小さい部屋ですが、今は、入りきれない本を入れて書庫代わりに使ってます。

委員

昔、そこで子供向けのお話会をしていたと伺ってますが、できたらここでできたらいいかなと思います。

事務局

先ほど、会長がおっしゃいました書庫に入れる本の活用の仕方や除籍問題をいろいろ解決して、小さいお話のできるような形に持っていきたいと考えております。

会長

物産品コーナーという新しい企画と思いますが、どういう物産を置かれて、市民の交流をすると書かれてますが、入口の一番いい場所に配置されてますが。

事務局

岡村製油の油、河内ワイン等柏原市の名産がありまして、それに関する本、染色、浴衣、ぶどうなど衰退しましたが、そのような本を集めて研究してお話してもらおう。柏原にはこういう物産あるとか、こういう商品も作ってるとか。

委員

今、玄関にもありますが。

事務局

ここのスペースを利用して、柏原の歴史や物産、遺跡の本とか、柏原の方々が書かれた本や写真などで、柏原をアピールできるスペースを作ろうかと思っています。先々月、柏原の昔の風景の写真展に皆さん関心を持たれてまして、そのような物を展示して柏原についてのコーナーを作っていきたいと思っています。

委員

26 年度にやっていくという計画は？

事務局

これから判断も決まっていない状態の中で、最小の予算で現状のままで少しでも良い図書館でやっていこうということです。図書館としては、この形を推し進めていきたいと考えてますが、財政等の判断で変わってくる問題であります。図書館としては改修をと言われた場合、この形でやっていきたいと思っています。

会長

いろんなご意見が出てますので、そのお金も先ほどの資料代の 900 万円に積んだ方がいいのでは、という意見もあるかと思います。本の質も大切なので、利便性も大切ではありますが、その辺りも考えていただきたいと思います。

会長

次の議題、市長からの指示にかかわる議題だと思いますが、資料 3 のシンポジウム、公共図書館と知の地域づくりについて事務局から説明をお願いします。

事務局

全国リレーシンポジウム「公共図書館と知の地域づくり」ということで、文字・活字文化推進機構、柏原市図書納入組合、大阪府書店商業組合主催による全国リレーシンポジウム「公共図書館と知の地

域づくり」が、8月5日にリビエールホールで開かれました。

元総務大臣の片山義博氏、現慶応大学法学部教授を招いての講演や、片山氏、柏原市中野隆一市長、日本図書館協会前理事長の塩見昇先生が加われましてパネルディスカッションが行われました。当日は300名ほど参加があり司会は大阪付書店商業組合副理事長の萩原さんが務められました。片山先生の講演の概要ですが、「知の地域づくりの拠点に」ということについて話されました。

概要をご紹介します。

鳥取県知事時代に、これからの鳥取県をどういう地域にするか考えた。自分たちの地域の問題は自分たちで考え解決する。国や中央への依存から脱却することが課題だった。そのためには地元が知の力を身につける必要がある。そこで、知の地域づくりとして、学校教育とともに生涯教育に力を入れて取り組んだ。その拠点となるのが図書館だ。図書館はリタイアした人たちが利用するものというイメージがあるが、本当は違う。市民、多忙なサラリーマンなどすべての人が利用できるものにしなければならない。図書貸出以外の利用法を考えることも必要だ。図書館と書店があいまって地域の読書環境を整備することも大切。鳥取県の図書館は地元の書店から本を購入している。書店が選書し、司書に相談する。書店と司書が切磋琢磨し、書店間で選書能力の競争も起きる。競争によって質が向上する。図書館は人的継続性が重要で、司書が長期間見ていかなければならない。図書館に指定管理はなじまないと思っている。こういう講演の内容でした。

パネルディスカッションの概要だけ申します。

質問で、知の地域づくりについてどう考えるかというものに対して、片山先生は「文化芸術は地産地消で」と、また中野市長は「地域独自の図書館作る」として、市長が考える図書館は「知の地域づくり」より「知の拠点」であってほしい。柏原は歴史ある街で遺跡もある。柏原市民としてプライドを持っていたくための知の拠点としたい。子育てしやすい街をつくり、幼時から本に親しんでもらえるようにする。画一的ではない、柏原独自の図書館像を思い描いている。大事にしたいのは地域であり、地域ならではの本。柏原のことをよく知っている町の本屋と図書館との関係構築を大切にしたい。

それから、塩見先生は「図書館は大きな役割」を持っていると。

図書館は人と資料が確かな出会いをすることを公的に保障する仕組みと考えている。知識、情報を提供する機関としてもっと活用されてしかるべき。知の地域づくりの観点から言えば、自分で考え判断し行動できる主体的な市民を作る上で、図書館は大きな役割を果たすことができる。

また、これは一部抜粋をしているのですが、質問で、全国各地で新しい図書館像が模索されているが、佐賀県の武雄市図書館についてどう考えるか、また図書館の理想像は？ということに対し、片山先生は図書館運営は自治体にと言われました。

図書館は学校教育と並んで一番重要で基礎的な行政運営。図書館や学校くらい自前で運営したい。図書館運営を中央の大手に発注すれば、下請構造の中で、よいところはすべて東京に取られてしまう。指定管理だと3年～5年と雇用が細切れとなり、長期的視点で責任を持って運営することがおぼつかなくなる。図書館は司書、ライブラリアンが中心となって、長期の雇用で安定的に運営して

ほしい。図書館は今、岐路に立っている。指定管理の形式でアウトソースする自治体が増えている。私の偏見かもしれないが、自治体行政の基礎であり核である図書館が重視されていないのではないかと危惧している。

図書館には色々な機能がある、書店に並んでいない本や資料を揃えて研究者の需要に応える側面が重要で、書店と棲み分けしながら、図書館が多くの人たちに利用されることが必要である。

この質問に対して、中野市長は「もっとも大事なのは利便性」としています。武雄市図書館は内容は別にして、国民、府民、市民が図書館について考えるよい機会になった。図書館で最も大事なことは利便性である。サラリーマンであれば夜 10 時まで開いてほしい。年間を通して色々な立場の方が不自由なく使えるようにしたい。子どもたちに本に親しんでもらうための施策も真剣に検討している。

塩見先生は「社会生活にも役立つ」とされています。図書館利用は問題解決や教養を高めることだけではなく、社会生活にも役立つということを強調しなければならない。情報環境の急激な変化に上手に付き合いながら、変わってはいけない面を見極めることも重要とお話されました。

最後に、副組合長の萩原さんが全国の図書館が新しい形を作り始めている。20 年後、30 年後の図書館、また未来をつくるのは我々の責任。その大きな役割を図書館や書店が担っているという自負を持って考えていかなければならない、と締めくくられました。以上、内容一部抜粋です。

会長

柏原市長が出られたシンポジウム、特に図書館にかかわるシンポジウムということで柏原市の図書館運営に関して大きな示唆になるはずだということで、今回ご報告していただいたと思います。片山元総務大臣、塩見先生、中野市長の言われたことに関して、ご意見などあればご発言いただけたらと思います。

委員

10 時まで図書館を開館しているのは、可能なことなのでしょうか？

事務局

人的な配置も必要ですし、その対費用効果を考えた場合、10 時まで開けた場合どれだけの人が来るかという調査もしなくてははいけません。現実的に 10 時まで開けている図書館はほとんどありません。7、8 時の場合で、6 時以降は親子同伴で来るとか、それによって対効価費用を考えると 7、8 時が適当でないかと思いますが、市長は 10 時までやってくれたらどうかという案を出されています。

会長

図書館の調査はいくつもあります、6 時を超えて利用する人がとても少ないというのがその調査で分かっています。多摩川市立の図書館だと思いますが、1 日の入館者数が 1 千人～1 千 200 人

くらいある図書館があつて、そこは8時までやっていますが6時以降の入館した人の数は1日平均12人なんです。もちろん利用していないわけではなくてずっと館内にいらして、18時を超えてもいらっしゃる方がいますが、実はそういう人たちはどうしても18時で帰ってはいけないかというと、そうではなくて家に帰っても仕方ないから図書館にいるという形が多いです。実際のところ、夜の図書館の利用はほとんどニーズとしてはないというのが図書館で行っている調査で分かっていることです。夜に図書館を開けることはコストパフォーマンスが悪いです。サービスの拡大にはなりますが、かかる費用に対してのパフォーマンスは悪いということにはなります。夜しか図書館に来れない人に対しては、サービスを考えなくてははいけない。いくつかの図書館が実施していますが、WEBから予約してもらって、それに対して返信でロッカー番号とロッカーのキー番号を利用者に対して通知して、図書館の外側にロッカー設置して、予約された本を入れてナンバーロックの南京錠でカギをかけておくというようなことをしているところがあります。図書館の開館時間にはどうしても来れないがどうしても図書館の資料を利用したい人に対してよい方法だと思います。夜遅くまで開けるよりは、サラリーマン、昼間来れない人に対する図書館のサービスの拡大になるのではと個人的には思います。

委員

中野市長が図書館を知の拠点として柏原独自の図書館像を描いていると書いてありますが、市議会で図書館を知の拠点とするためなどの予算を増やすとかいう動きはあるのでしょうか？

委員

2人が市議会から参加させていただいてますが、共通して思っているのは本の重要性、可能性です。その意味で予算を確保するような声掛けをしていこうと思っています。ただ全体的な財政が230億円がいっぱい決まっている状態です。その中で我々ができることは図書館にかかる予算を少しでも確保していい本をいれる、サービスを良くするという方向性だけは重視していこうと思っています。

会長

全体の確認をします。

本日は、上半期の事業執行報告、下半期の事業計画について、図書館の今後の運営の在り方についての案というよりか今後の検討ということで出していただきました。それについて何かありますか？

委員

今後の運営の在り方について、いつまでにどうしないといけないということありませんか？

事務局

第1回協議会の継続審議ということで、次に指示が下りてくると考えられます。その時に集まっていたいただき、お話をお聞きしながら協議会の意見をまとめていきたいと思っております。継続審議ということでお願いします。

委員

本の借りる期間は2週間と決められていますが、電話をかければ延長ができますが、それを知らない人が多いと思われます。それを知らせる方法はないかなと思っております。

それと、ブックポストが柏原では何年か先にできますか？国分駅も駅から遠いので、検討願います。

事務局

現在、柏原駅の中での設置を検討しております。柏原駅、国分駅で検討課題として考えていきます。

会長

他にありませんでしょうか。それでは、これで今回の図書館協議会の議題を全て終わったこととさせていただきます。本日の案件、全て終わりましたのでこれで平成25年度第2回図書館協議会を終了させていただきます。委員各位におかれましては公私何かとご多忙にも関わりませずご出席賜り厚くお礼申し上げます。

これから徐々に冷え込んでくるかと思われますので、健康にご留意いただきたいと思います。進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局

高鉦会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見を頂きありがとうございました。今後とも職員一同、市民が利用しやすい図書館を構築していく所存でございますので引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

なお、最後になりますが、本日の会議録につきましては、後日各委員に持ち回りさせていただいて図書館ホームページに掲載させていただきますことをご了承賜りますようお願い申し上げ、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。